

製鋼所・製鉄場をつくった男、井上角五郎

1 埋め立てが進んだ室蘭港



3 角五郎の苦勞

① お金が足りない！

もともと角五郎が「北海道炭礦鉄道」に入ったのは、会社を建て直すためだった。会社を建て直すために、角五郎はまず、自分や役員の給料を減らすことから始め、様々な改革をしていった。



② 砂鉄をとる場所が足りない！

鉄の材料である砂鉄をとる場所をもっていたのは角五郎。角五郎の個人のものだったのだが、工場のために、ただで会社にあげた。



<当時の砂鉄鉱山>

③ 土地が足りない！

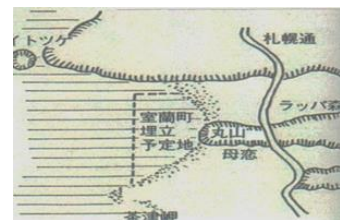
室蘭は土地が狭いので、工場を作るために山を削り、海を埋め立てた。山を削るのに戦争の時以上の数の爆薬を使った。手違いでたくさんの方が亡くなった。他の平らな土地も、掘ると海水が出るので、土を盛ったり、排水したりしながら工事をした。



<崩す前の丸山>



<段々に崩す作業現場>



ちょうど1の写真の★の所あたりだよ。



<崩された後の丸山>

角五郎の室蘭年表

1892年 (明治26年)	「北海道炭礦鉄道」へ入社
1906年 (明治39年)	鉄道を国に売る。 本社を室蘭へ移動
1907年 (明治40年)	日本製鋼所を設立
1909年 (明治42年)	北炭輪西製鉄場を設立
1910年 (明治43年)	会社を辞職。

2 室蘭の発展に貢献した角五郎

① 町の整備

- ・発電所を作り、室蘭地区全区に配電した。
- ・鷲別川を利用して水道をつくった。
- ・製材所（板を作る所）をつくった。
- ・精米所を御崎駅につくって全部の炭鉱に送ることができるようにした。



② 病院

従業員が増えたことによって医療施設が必要となり、私立楽生病院ができた。その後、工場以外の人もみてあげるようになって、日本製鋼所職工共済会病院となり、今の日鋼記念病院のもとになった。



<日本製鋼所職工共済会>

③ 地元の人を採用し、技術を伝えていく。

地元である室蘭の学校の卒業生を採用し、技術だけでなく、社会生活も教える学校を作った。厳しい技能訓練によって優秀な技能者を育てた。



「初めて室蘭を見た時から港の改良、鉄道の延長を計画し、それから頭から離れなかった。この荒れた室蘭を小樽や函館に並ぶくらいの町にしたい！」
「室蘭なら小樽より東京に近くて品物を運びやすいし、外国も攻めづらい。武器作りと外国との商売で、日本を強く、豊かにする！」



にぎわう室蘭の町

町には次々と店が並び、函館や札幌からその店で働きに来る人が急激に増えた。当時流行った唄。「行こうか幕西、帰ろうか家路、ここが思案の仏坂。」



<当時の幕西町>

<受け継がれる技術>

現在でも、「日本製鋼がストップすると世界の原子力発電所が止まる。」と言われるほど高い技術をもつ。

